

誰一人取り残さない ジェンダーの視点で考える防災パネル

ジェンダーとは、生物学的な性別に対して、「男はこうあるべきだ」「女はこうあるべきだ」といった社会的・文化的に作られた性別

災害時にはこんな問題が…!! その1

わたしたち、避難所には
いられない？

→ 1 へ

赤ちゃんが
泣くから…

コトバ、
ワカリマセン…

カラダを伸ばして
安静にできないし

車イス
困りますな…

トイレが
ちょっと…

さわぐな！
静かにしろ！

勉強しろ

わがまま
言うな！

なんでも
「ガマンしろ」
って言われる

暗くなると
こわいよ…

友達に会えない

学校が避難所になって
勉強も遊びもできない

性暴力なんて、
あるの？

→ 2 へ

こんな
大変な時に？

災害ボランティアも
被害に？

「命があったんだから、
まあ…」
って言われても…

子どもは？

→ 3 へ

地域の災害対応力を高めるためには、ジェンダーの視点から、対策を考えることが重要です。

でも、具体的にはどうということ？

過去の災害では、意思決定に女性の参画が十分でなく、性別で異なるニーズへの配慮がないなどの課題が生じました。このパネルでは、それらの出来事を取り上げて、ジェンダーの視点で取り組む地域防災のヒントを考えました。

性別をはじめ年代、障害や病気の有無、それぞれの人が置かれた立場によって、災害時に受ける被害や復興への道のりは多様です。

また、日頃の社会の不平等が、災害時にはそのまま表れます。

ぜひ、自分自身の、また地域の防災への取り組みの参考に、ご活用ください。

令和3年度岡山市男女共同参画大学「さんかくカレッジ」専門コース
「誰一人取り残さないジェンダーの視点で考える防災」後期講座受講者作成

災害時にはこんな問題が…!! その2

